



かけはし

脚延長手術

2017年2月1日に院長として就任されました、
金先生に「脚延長手術」につきましてお話を伺いました。

京都府内で初めて実施

人には、自分の骨を切って延ばすと再生能力が働きます。ある期間待っていると正常な骨ができるきます。伸長する年齢にもよりますが、1日に1ミリずつ延ばしていくのです。その間に足の長さを正常な足に合わせて、変形も治しながら治療していきます。

従来は足の骨を切って、足が曲ったままだった人を真っ直ぐにしてきましたが、限界がありました。自分の骨を延ばす治療なので侵襲も少なく、いくらでも足を長くすることができます。患者さんにとっては大きな福音です。私はこの治療を平成4年から京都で始め、今まで京都府立医科大学で実施してきました。足の変形などで我慢しておられたり、治療をしていない患者さんが多いと言われている京都南部地域に先端医療を提供するため、2016年10月1日から宇治武田病院で実施する運びになりました。

手術では、延ばす方の骨の状況に応じてピンを打ち込みます。患者さんの年齢や変形部位によって延ばす長さは異なりますが、1日あたり0.5~1.0ミリを2~4回に分けて延ばしていきます。定期的にX線検査によって延ばす長さをチェックし、1日1ミリの延長なので、3センチでは30日間要します。その後は、良い骨になるまで管理しながら待ちます。延長した時間の2倍は待たないと、いい骨にはなりません。その間に、神経も血管も延びて再生できます。延長操作そのもので痛みを感じることはほとんどありません。下肢の骨延長の場合、早く仮骨を成熟させるために術後早期から荷重負荷を行い、歩く練習を早期から行います。術後1~2か月ほどで退院し、職場復帰や学校に通えるようになります。

骨髄炎で骨を片方とつてしまったり、腫瘍で足を切って骨がない骨腫瘍の場合にも、一度短縮して違う部位で骨切りをして骨を延ばします。また、欠損した部位を、健常な骨を切って移動させる「ボーントランスポート」(骨移動術)も行います。自家骨でつくる「再生医療」の分野で、保険適用です。

イリザロフ法による変形矯正・脚延長例



○脚X脚の矯正

特にX、O脚の場合、真っ直ぐな状態にします。そういった骨の変形や、歩きにくさといった症例を抱えながら、治療の事をご存じなかつたり、知っていても治療を逡巡される患者さんや家族は、まだまだおられると思っています。10~13歳のお子様の場合には、簡単な手術で矯正が可能です。手術はほとんどの場合、全身麻酔で行います。全身麻酔から覚めても手術部の痛みが少なく、次の日から車椅子に乗って移動することも可能です。

管理が大切なのは言
うまでありません。

例えば、神経が伸びすぎると神経マヒが出ます。しづれや痛みがみられる時には、延長せず、その間に神経の成長が追い付いてくるのを確認して延ばすことを再開します。また、ピン刺入部の感染予防も大切です。毎日シャワーをして消毒してもらいます。患者さんは治療中、通学、仕事をし、歩きながら「この長さでいい」と歩幅や歩行状態を自分で確認できます。病院へは1~2週間に一度の通院で状態を医師に報告します。

管理の大切さ

〒611-0021
京都府宇治市宇治里尻36-26
TEL 0774-25-2500(代)
FAX 0774-25-2353
URL <http://www.takedahp.or.jp/>

No.73 平成29年2月15日発行

武田病院グループ経営理念

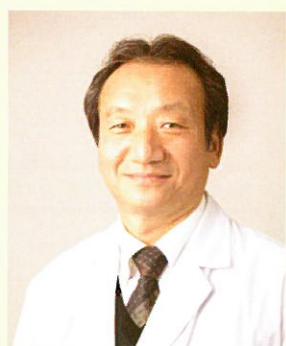
●思いやりの心

武田病院グループ基本方針

- プリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利の尊重
- 地球にやさしい環境づくり

宇治武田病院 基本方針

1. 安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
2. 地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
3. 患者さんとの良い信頼関係を築き、人間としての尊厳を重んじる医療を行います。
4. 患者さんを「私たちの家族」と考え、最良の結果が得られるように最善の努力を払います。
5. 環境にやさしい病院を目指します。
6. 働きやすい労働環境を創造するために、お互いを尊重する人間性豊かな医療人を目指します。
7. 仕事を通じて社会貢献できるよう努めます。



宇治武田病院 院長
小児運動器・イリザロフセンター
センター長

金 郁詰 (きむ・うっちょる)

昭和57年3月31日 信州大学医学部卒業
昭和57年5月16日 京都府立医科大学付属病院研修医、整形外科学教室勤務
昭和59年4月1日 近江八幡市民病院医員、整形外科勤務
昭和61年4月1日 済生会吹田病院医員、整形外科勤務
昭和62年10月1日 公立湖北総合病院医長、整形外科勤務
平成元年1月13日 医学生士(京都府立医科大学 第乙1102号)
平成2年7月1日 アメリカ合衆国マイヨクリニック留学
平成4年5月1日 京都府立医科大学助手、整形外科学教室勤務
平成10年4月1日 京都府立医科大学大学院講師、整形外科学教室勤務
平成14年10月1日 京都府立医科大学講師、整形外科学教室勤務
平成17年1月1日 京都府立医科大学助教授、整形外科学教室勤務
平成19年4月1日 京都府立医科大学准教授に改名、整形外科学教室勤務
平成25年4月1日 京都府立医科大学小児整形外科学部門長、整形外科学教室勤務
平成25年7月1日 京都府立医科大学小児整形外科教授、整形外科学教室勤務
平成28年10月1日 京都府立医科大学 特任教授
宇治武田病院 院長代理
平成29年2月1日 宇治武田病院 院長

大腸がん

2016年9月より宇治武田病院に副院長として着任されました、薄井先生に「大腸がん」につきましてお話を伺いました。

大腸がんとは

大腸がんの罹患率は年々増加しており、がんによる死亡率は男女共に上位を占めていて、若い人では20代から発症するといわれております。欧米型の食事が原因で増加している可能性があります。一般的に、大腸がんは初期には症状がないといわれています。進行するとがんができる部分によって症状の出方が違い、肛門に近い直腸やS状結腸ではトマトケチャップのような出血が見られたり、便が細くなったり、痛みや残便感を感じたりします。これらの症状が出たときは、かなり進行している場合が多いのですが、健診で便潜血検査を受けることが早期発見につながります。

便潜血検査は、市民健診やかかりつけ医などで見ることができます。便を少量取って

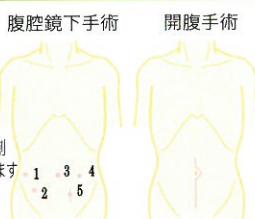
市民健診などで早期発見を

便の中に血液が混じっていないかどうかを調べる検査で、大腸がんスクリーニング法では有効です。症状が出てからでは遅いこともあるので、積極的に検査を受けてください。会社の健診で検便がありますが、女性は抵抗があるのかあまり自分から進んで行う人は少ないです。しかし、女性でも大腸がん罹患率は増えていますし、面倒くさがらずに便潜血検査を受けて欲しいと思います。便潜血が陽性だと、大腸の内視鏡検査をします。病院に行って下剤を飲んでおなかを空っぽにした後、おしゃりからカメラを入れて見る方法です。2年に1回をめどに受けなければと思います。

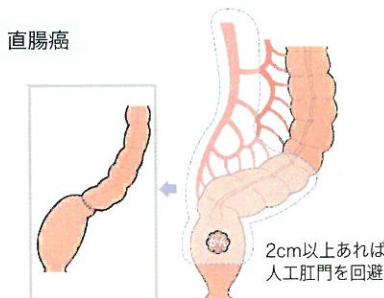
がんの治療は症状が出てから治すよりも、なるべく早く見つけて治療することが大切です。早期発見することで内視鏡手術で済むことがあります。また、ポリープは5ミリを超えたらがんを合併している可能性がありますので、取った方がいいと思います。最近はカメラの技術が進歩していますので、進行する前に治療すれば医療費もかからずに負担も少なくすることができます。

大腸がんの治療法

大腸がんの手術法



直腸がんの手術法



大腸の手術方法は、できる位置によって異なりますが、ごく早期の場合、内視鏡でおなかを切らさず治せます。最近は結腸がんの手術はほとんど腹腔鏡下切除術で、おなかに小さな穴を5か所ほど開け、がんを取り除く際5cmほど切開します。比較的回復が早く、1~2週間ぐらいで退院できます。残念ながら高度に進行したがんの場合は、開腹手術での治療となります。これは2週間以上の入院になりますので、早期発見、早期治療が重大なポイントとなります。がんが小さい範囲だと、がんを含めて小部分を切除しますが、範囲が広く転移が考えられる場合はリンパ節と一緒に広範囲を取る手術になります。直腸がんの場合、肛門に近くなると人工肛門をつけることになりますが、最近は技術が上がってきたため、肛門から2cmぐらい離れて切除できれば人工肛門を作らずに手術ができるようになりました。肛門・直腸の場合は、機能と根治度の天秤となり、機能を残すには手術範囲が狭くなるし、手術範囲を広げると大きく取らなくてはいけないため肛門や排尿機能が低下します。早期がんであれば、人工肛門にする必要が少なくなり、早期発見、早期治療が重要です。

薬物治療では、かつて大腸は進行がゆっくりで薬が効かないといわれていましたが、現在では薬剤が開発され、有効率が上がってきました。例えば肝臓や肺に転移することがあっても、薬を使うことで5年以上生存する人が増えてきました。がんの大きさが大きくて摘出するには危ないと、高度に進行したがんでも、抗がん剤を使って小さくすることで手術ができるようになることもあります。現状では、薬のみで全部治すことは難しく、手術の補助療法として使われています。

また、武田病院グループには、京都駅前の武田病院に画像診断センターがあり、術後にPET-CTを受けに行ってもらいます。PET検査は、がんが小さい時期でも鋭敏に見つけることができ、大腸がんの術後に早期の再発や偶然に肺がんが見つかることもあります。

開業医の先生方へ

当病院を紹介してくださった患者さんの術後のフォローは、できるだけ開業医の先生のもとで治療を継続してもらえるようにと考えています。便潜血検査で陽性が出た患者さんは、当病院で検査・手術をして、術後の抗がん剤やフォローは、開業医の先生と密接にコンタクトを取りながら地域で治していきたいと思っています。

今回ご紹介しました整形外科 金郁詒院長は、火（午後）金（午前）小児運動器・イリザロフセンターでの診療を担当しております。外科 薄井副院長は月・金の午前中を担当しております。ご予約の際は、地域医療連携室へご連絡ください。

6月1日より、太田春香・太田一美が加わり、地域医療連携室は7名体制となりました。今回は新規がご挨拶させて頂きます。これまで在宅での相談業務を行ってきました。今まででは退院されてこられた方のご相談が主でしたが、これからは病院内の多職種と連携を図り、患者様が安心して退院出来るように支援を行ってまいりたいと思っています。又、開業医の先生方・介護サービス事業所の皆様方との連携も大切にしながら頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

担当 後列：高山 太田(一) 田村

前列：池山 仮屋蘭 新阜 太田(春)

▼ 地域医療連携室(直通) TEL 0774-25-2062/FAX 0774-25-2660 E-mail renkei-u@takedahp.or.jp



宇治武田病院 副院長 外科

薄井 裕治(うすい・ゆうじ)

昭和53年3月 京都大学医学部 卒業
平成2年9月 京都大学 医学博士
平成9年10月 京都専売病院
平成17年9月 東山武田病院
平成19年4月 武田病院
平成24年4月 十条武田リハビリテーション病院
平成28年9月 宇治武田病院 副院長

現在に至る